

船橋市リハビリセンター
令和5年度事業報告書

指定管理者：医療法人社団輝生会

目次

I	管理の実施状況	1
1	センター基盤の整備	1
(1)	組織編成	1
(2)	情報システムの構築	2
(3)	職員の資質向上	2
2	サービス機能	3
(1)	職員配置	3
(2)	提供したサービス	3
3	地域連携・ネットワーキング	4
(1)	回復期病棟を持つ病院との連携	4
(2)	医師会との連携	5
(3)	地域の診療所や介護サービス事業者との連携	5
II	利用状況	7
1	外来患者	7
(1)	外来リハビリテーション患者数	7
(2)	月別外来患者（延べ人数）内訳	7
(3)	年齢別・男女別外来患者内訳	9
(4)	疾患別外来患者内訳	10
(5)	地域別外来患者内訳	11
2	通所リハビリテーション利用者	12
(1)	通所リハビリテーション利用者数	12
(2)	月別通所リハビリテーション実績（延べ人数）内訳	12
(3)	年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳	13
(4)	疾患別通所リハビリテーション利用者内訳	13
(5)	介護度別分類	14
(6)	地域別通所リハビリテーション利用者内訳	15
3	訪問リハビリテーション利用者	16
(1)	訪問リハビリテーション利用者数	16
(2)	月別訪問リハビリテーション実績（延べ人数）内訳	16
(3)	年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳	17
(4)	疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳	17
(5)	介護度別分類	18
(6)	地域別訪問リハビリテーション利用者内訳	19
4	訪問看護利用者	20
(1)	訪問看護利用者数	20

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳	20
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳	21
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳	21
(5) 介護度別分類	22
(6) 地域別訪問看護利用者内訳	23
5 地域リハビリテーション拠点事業	24
6 リハビリ事業	24
(1) パワーリハビリ教室	24
(2) パワーリハビリフォローアップ	25
(3) プールリハビリ	25
Ⅲ 収支状況	27
Ⅳ 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告	29
(1) 目標1 利用者アンケートによる患者満足度（外来患者について）	29
(2) 目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の 達成率（通所リハビリ利用者について）	31
(3) 目標3 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数7年以上の者の占める割 合100分の30以上	32
(4) 目標4 利用者アンケートによる患者満足度（通所リハビリ利用者について）	33
(5) 目標5 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の 達成率（訪問リハビリ利用者について）	35
(6) 目標6 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、 勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上	38
(7) 目標7 利用者アンケートによる患者満足度（訪問リハビリ利用者について）	39
(8) 目標8 利用者アンケートによる患者満足度（訪問看護利用者について）	41
(9) 目標9 利用者アンケートによる患者満足度（リハビリ事業利用者について）	42
(10) 目標10 診療所部門 経常収支比率	43
(11) 目標11 訪問看護部門 経常収支比率	45
(12) 目標12 毎年度実施計画を立て地域リハビリテーション拠点事業を行う	46
(資料)	

資料1 組織図

資料2 センター内外の研修・学会

資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績

資料4 外来患者アンケート

資料5 通所リハビリテーションアンケート

資料6 訪問リハビリテーションアンケート

資料7 訪問看護アンケート

資料8 地域リハビリテーション拠点事業
アンケート

I 管理の実施状況

1 センター基盤の整備

(1) 組織編成

リハビリセンターの組織編成は昨年度から新たに設置したもの、撤廃したものではなく、下記の体制を組んで運営している。センター長を補佐する役割として、副センター長を配置。以下、クリニック部門、サポート部門、船橋市委託事業部門の3つのセクションを配置し、それぞれの部門においてセンターの基本となるクリニック事業（外来リハ・通所リハ・訪問リハ）、リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）、地域リハビリテーション拠点事業、職員の資質向上、事務の業務を担当し、医療安全、個人情報保護等センターを運営する上での個別の重要事項については、専門の委員会が担当する体制とした。各事業と主な委員会の役割は次のとおり。（資料1 組織図）

A クリニック事業

クリニックは、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士が所属し、外来・通所・訪問リハビリテーションの患者の診療及びリハビリテーションを担当した。

B 訪問看護

訪問看護は看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が所属し、訪問看護ステーションの利用者の看護及びリハビリテーションを担当した。

C リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）

リハビリ事業は、理学療法士、健康運動指導士を配置し、利用者の筋力マシンを使用するトレーニングの相談やアドバイス、プールリハビリの水中歩行訓練等を担当した。

D 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーション拠点事業は、ソーシャルワーカーを配置し、リハビリについての啓発活動、リハビリ関係者の育成、医療及び介護の連携強化、リハビリの実態把握、リハビリの総合相談を担当した。

E サポート部

サポート部は、事務職が所属し、医療事務、総務・人事、施設管理、患者サービスの向上及び、職員の働きやすい環境作りを担当した。

F 主な委員会の担当事項

① 医療安全委員会及び感染対策委員会

医療安全委員会は、センター内における事故を防止し、安全かつ適切に業務遂行できる体制を確立した。センター内で起こる「インシデント（ヒヤリハット）」報告に対して検討し、事故を未然に防ぐべく対策を提案した。また、クリニック内トイレで利用者が急変したことを想定し、急変時対応の勉強会を実

施した。感染対策委員会は、センター内における細菌、微生物、ウイルス等の感染防止対策を推進し、院内衛生管理の万全を期した。感染予防に対する意識を高めるため、手洗い評価、嘔吐物の処理方法の実技形式の研修を実施した。

②個人情報保護委員会及び診療情報開示検討委員会

個人情報保護委員会は、患者等の個人情報の取り扱い・保護・管理・委託・苦情・相談等を審議した。診療情報開示検討委員会は、診療情報の提供・開示の具体的方策及び、実施要綱などの運営上の問題点等を協議するとともに、センター長からの諮問により開示申請者の適否・開示情報の範囲、開示の可否について審査する体制を整えている。

② サービス向上委員会

患者のアメニティーの向上・苦情対応は、サービス向上委員会が担当した。苦情対応として、ご意見箱を設置し、患者等の苦情に対応する体制を整え、患者満足度調査等も実施した。接遇向上を目指して、接遇に優れるスタッフを投票で選び表彰した。運営の透明性を確保するため、センター内の情報を公開して、事業内容を刊行物にて提供した。

(2) 情報システムの構築

リハビリセンタークリニックで行う診療はチームで行い、電子カルテシステムを導入し、患者の状況・治療の目標等の患者情報を共有している。この電子カルテにより、患者情報が一元化され、チームスタッフが患者とその家族との面談の際に必要な情報提供にも寄与した。

(3) 職員の資質向上

効果的なリハビリテーションの提供には、患者本人から機能回復の意欲を引き出し高いモチベーション（動機付け）をもって主体的にリハビリテーションを行うことができる環境づくりが重要である。その中で、職員の対応は最も重要となる。

このことから、職員には当院が提供するリハビリテーションの理解を深めるため、病院の概要、診療システム、各部門の業務体制だけでなく、当法人の基本理念、診療方針、患者の基本的な権利等を理解し行動できるよう研修を行った。また、専門性を高めるため、外部で行われる研修会にも参加を促した。

各スタッフの接遇に対する意識を共有するため、各自が接遇について気を付けていることについて共有を図った。また、接遇に優れるスタッフを表彰する機会を設け、接遇意識の向上を図った。

(資料2 センター内外の研修・学会)

2 サービス機能

(1) 職員配置

区分	令和5年度
センター長兼院長兼医師	1
副センター長	1
所長（看護師）	1
マネジャー（作業療法士）	1
看護師	5（3）
医師	1（1）
ケアワーカー	3（1）
理学療法士	13
作業療法士	6
言語聴覚士	2
ソーシャルワーカー	1（1）
健康運動指導士	2（1）
サポート部（事務）	6（1）
運転手	9（9）
総計	52（17）

（）内非常勤職員数

(2) 提供したサービス

ア）外来リハビリテーション

通院による外来リハビリテーションを提供した。混雑した場合には個別リハビリテーションが十分に提供できなくなることからサービスの提供は予約制とした。また、リハビリテーション科の医師の診察等には一定以上の時間を要することから初回受付も予約制とした。

イ）通所リハビリテーション

利用者が可能な限り居宅においてその能力に応じ、生活機能の維持・向上を積極的に図り、要支援・要介護状態の予防及びその重症化の予防、軽減ができるよう介護（予防）通所リハビリテーションサービスを提供した。対象は要支援1・2もしくは、要介護1から5の方とし、個別リハ（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）の実施に加えて自主トレーニングを行う時間を設け、1回およそ70分で行った。

ウ）訪問リハビリテーション

利用者の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活活動の維持、回復を図るとともに、生活の質の確保を重視した在宅療養が継続できるように訪問リハビリテーションを通じた支援を行った。サービス提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

エ) 訪問看護ステーション

利用者の心身の特性を踏まえて、個々に応じたケアを実施することで心身の活力を維持し、より安全な在宅療養生活を送れるよう支援した。また、サービスの特性から地域におけるニーズとして、24時間・緊急時への対応が求められていることから、利用者が24時間安心して生活が送れるように24時間の緊急時の対応を行った。サービスの提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

オ) 地域リハビリテーション拠点事業

市民及び市内のリハビリテーション関係者へのリハビリテーションの重要性及び必要性の周知、市内のリハビリテーション関係者の育成、医療及び介護の連携強化等の目的から、リハビリ関係者向け講演会として研究大会、リハビリ関係者向け研修会として介護職員向け勉強会・地区勉強会・摂食栄養サポート勉強会を計画し、実行した。市民向けには、ふなばし健康まつりでステージを担当した他、体操を多く取り入れた「転倒予防体操」講座をリハビリセンターで開催した。刊行物やリーフレットも配布し、リハビリテーションの普及・啓発を図った。

また、リハビリテーションに関する実態を把握するため、回復期リハビリテーション病棟実態調査と高齢者数・要介護認定率と介護サービス推移の調査研究を行った。

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業活動実績)

カ) リハビリ事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用者の体調チェック・体温測定・手指消毒等の徹底を継続した。

① パワーリハビリ教室

市内の身体機能の低下した高齢者等に対し、要介護状態等の予防や軽減、また、自立した生活をできるだけ実現すること等を主な目的として実施した。

② パワーリハビリフォローアップ

パワーリハビリ教室終了後の健康維持・体力作り、仲間との交流などを主な目的として実施した。

③ プールリハビリ

水がもつ特性を活かし、下半身への負担を軽減しながら高齢者の体力及び筋力の維持を目的として実施した。

3 地域連携・ネットワーキング

(1) 回復期病棟を持つ病院との連携

回復期病棟を持つ近隣の医療機関と連絡を取り合い、必要な市民が円滑にリハビリテーションサービスを受けられるよう情報交換を行った。

(2) 医師会との連携

クリニックやリハビリ事業を利用する患者・利用者を通じてかかりつけ医との連携を図った。リハビリセンター刊行物を発行し、医師会郵送物に同封してもらい、会員にリハビリテーション及びリハビリセンターの周知を図った。

(3) 地域の診療所や介護サービス事業者との連携

- ① 近隣医療機関と連絡を取り、情報交換を行った。
- ② 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク 地域リハ推進委員会」と連携し、地域リハビリテーション拠点事業の実施に反映させた。
- ③ 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク役員会」に出席し、関係団体として協力した。
- ④ 「船橋市在宅医療支援拠点ふなぽーと」事務局に出向き、運営について情報交換を行った。
- ⑤ 「船橋市在宅医療支援拠点ふなぽーと」運営連絡調整会議に出席し、運営に協力した。
- ⑥ 船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会と連絡を取り合い、会員である市内外のＳＷと情報交換を行った。
- ⑦ 「船橋市通所リハビリテーション連絡会」と連携を図り、会の運営に協力した。
- ⑧ 「船橋市訪問リハビリテーション連絡会」と連携を図り、会の運営に協力した。
- ⑨ 「ふなばし市訪問看護連絡協議会」と連携を図り、会の運営に協力した。

リハビリテーション総合相談件数（重複あり）

	センター事業に関する相談			センター以外に関する相談※	その他
	クリニック事業に関する相談	リハビリ事業に関する相談	訪問看護に関する相談		
令和5年4月	29	2	0	0	0
令和5年5月	48	3	0	1	0
令和5年6月	40	2	0	0	0
令和5年7月	37	3	0	2	0
令和5年8月	39	0	0	0	0
令和5年9月	40	0	1	1	0
令和5年10月	39	2	0	1	0
令和5年11月	36	2	0	0	0
令和5年12月	38	2	0	1	0
令和6年1月	33	0	0	0	0
令和6年2月	22	1	0	2	0
令和6年3月	40	2	0	1	0
計	441	19	1	9	0

※センター以外に関する相談の内容

- ・息子さんが来館され相談。90歳のお父さまについて。介護付き住宅に入所している。運動不足で歩行が困難になっている。その施設で運営しているデイサービスに週2回行くが、他は部屋でテレビを見てばかりいる。どうしたら良いか。
- 施設の外部のCMと契約しているという。運動は必要な方と思われた。当センター通所リハビリ送迎範囲ではなかったため、息子さんの了解のもと、CMと連絡をとり、施設近くの通所リハ施設があるため、紹介した。
- ・知人からの電話。本人は、老人保健施設入所中で、3ヵ月前に脊柱管狭窄症の診断で2ヵ月間病院へ入院・加療。1ヵ月前に元の老人保健施設に戻ったが、リハビリの内容が気に入らない。当センターに入所できないだろうか。
- 当センターは入所設備がないため、老人保健施設のケアマネジャーを通じて、リハビリについて相談してみることを提案した。
- ・20代女性からの相談。専門学校を卒業後、柔道整復師として1年勤務後、精神疾患で退職し、退職となった。福祉系の職場で働きたいと考えている。
- 通所施設がどういうところか、イメージしてみたいとのことで、当センターの見学を希望されたため、案内し、現在通っている就労支援施設スタッフと情報共有した。今後、就労支援施設を通じて就職のイメージを具体化していくこととした。
- ・本人（年齢不詳）より電話相談。何年も前から20分歩くと息が切れて歩けなくなった。リハビリをすると良くなるだろうか。買い物以外、アパートの中でほとんど歩いていない。食料品は生協で賄っている。お風呂も入れておらず、清拭している。
- かかりつけ医はあるとのことだったため、まずは主治医と介護保険の申請について相談することを勧めた。リハビリについては、主治医の判断により、進めることができると伝えた。また、近隣の地域包括支援センターがあるため、そこでの相談をお勧めした。
- ・本人より電話。右大腿骨骨折の診断でプレートを入れた。3ヵ月の入院中に、介護保険を申請した。最近足が腫れ、動かなくなってきた。リハビリをすればよくなるだろうか。
- 整形外科受診日が近いとのことで、受診の際に足の腫れや動きにくさなどについて相談するよう提案。当該医療機関にもリハビリテーション科があったため、整形受診とリハが必要ならば、そちらでまとめて行うことが良いと思われることをアドバイスした。
- ・本人より電話。西船橋のクリニックでリハビリを受けている。送迎付きのリハビリがあるとのことだったので、電話をしてみたとのこと。
- 当センター送迎範囲外であったため、送迎範囲である通所リハ事業所を情報提供した。介護保険申請がまだとのことであったため、介護保険申請手続きについてご案内した。
- ・急性期病院入院中の本人から電話。脳梗塞発症から50日目。明らかな麻痺はないが歩行が不安定。一人暮らしができるだろうか。転居も検討している。
- 入院中の病院には、回復期病棟もあるため、近日開催されるという医師との面談時に現在の不安な点を医師に相談するようアドバイス。SWもいる医療機関であるため、そちらに相談してみるのも良いとアドバイスした。

Ⅱ 利用状況

船橋市リハビリセンターにおける令和5年度の利用実績は以下の通りである。
なお、表示単位未満を端数処理しているため、合計と一致しない場合がある。

1 外来患者（一般診療・リハビリテーション）

(1) 外来リハビリテーション患者数（単位：人）

	実患者数	延べ患者数
計	87	2,845

(2) 月別外来患者（延べ人数）内訳

診療日数	257
------	-----

①外来リハビリテーション実績（単位：人）

区分	新規（初診）	再診	計
令和5年4月	2	254	256
令和5年5月	6	284	290
令和5年6月	1	249	250
令和5年7月	5	254	259
令和5年8月	4	278	282
令和5年9月	3	245	248
令和5年10月	6	241	247
令和5年11月	1	251	252
令和5年12月	4	220	224
令和6年1月	3	190	193
令和6年2月	1	190	191
令和6年3月	1	152	153
合計	37	2,808	2,845
1日平均患者	0.1	10.9	11.1

②一般診療実績（通所リハビリテーション利用者への診察）（単位：人）

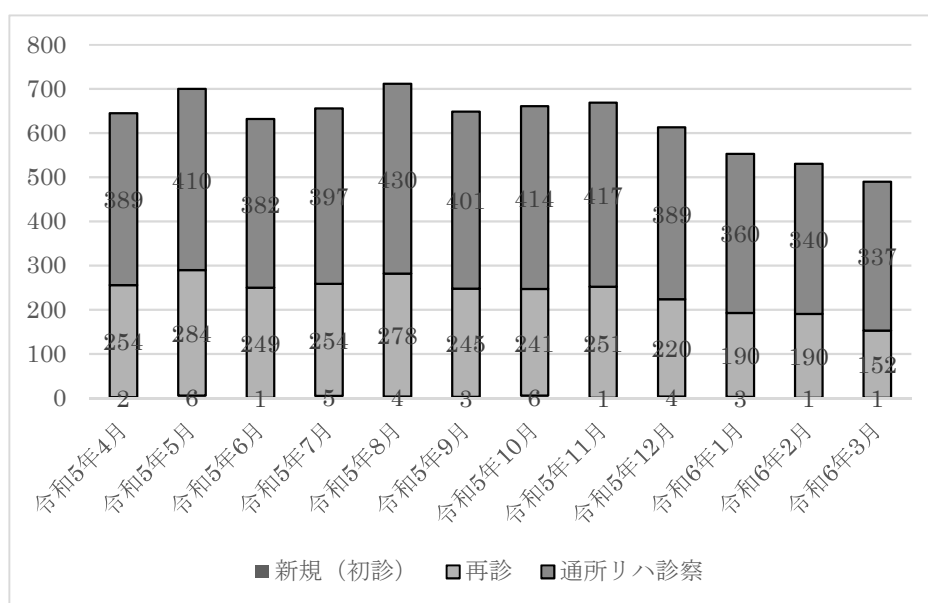
区分	通所リハ診察
令和5年4月	389
令和5年5月	410
令和5年6月	382
令和5年7月	397
令和5年8月	430
令和5年9月	401
令和5年10月	414
令和5年11月	417
令和5年12月	389

令和6年1月	360
令和6年2月	340
令和6年3月	337
合計	4,666
1日平均患者	18.2

③外来診療実績（①＋②）

（単位：人）

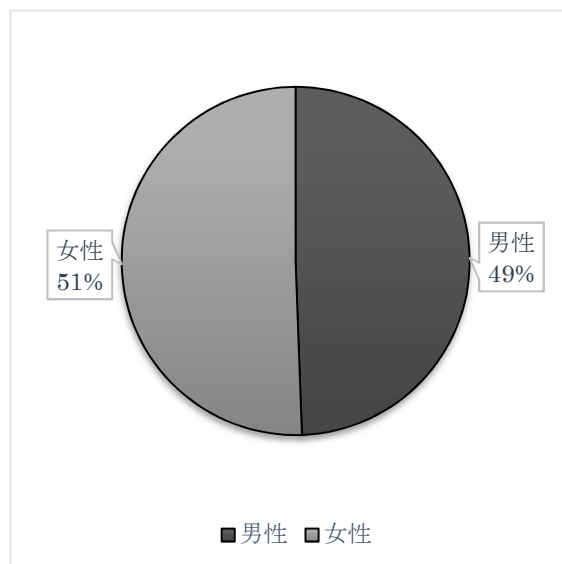
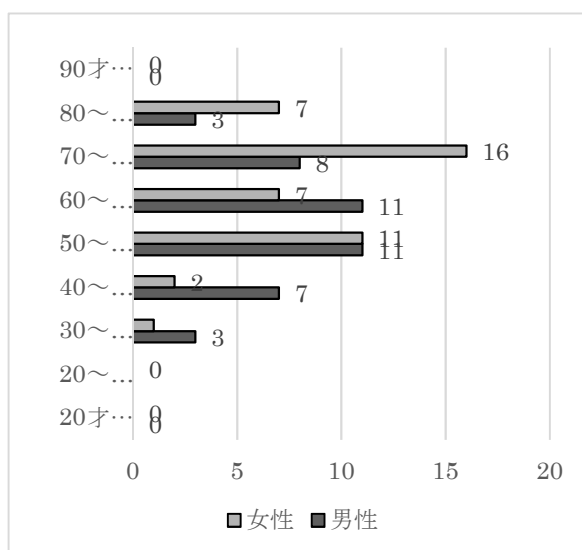
区分	新規（初診）	再診	通所リハ診察	計
令和5年4月	2	254	389	645
令和5年5月	6	284	410	700
令和5年6月	1	249	382	632
令和5年7月	5	254	397	656
令和5年8月	4	278	430	712
令和5年9月	3	245	401	649
令和5年10月	6	241	414	661
令和5年11月	1	251	417	669
令和5年12月	4	220	389	613
令和6年1月	3	190	360	553
令和6年2月	1	190	340	531
令和6年3月	1	152	337	490
合計	37	2,808	4,666	7,511
1日平均患者	0.1	10.9	18.2	29.2



(3) 外来リハビリテーション年齢別・男女別外来患者内訳

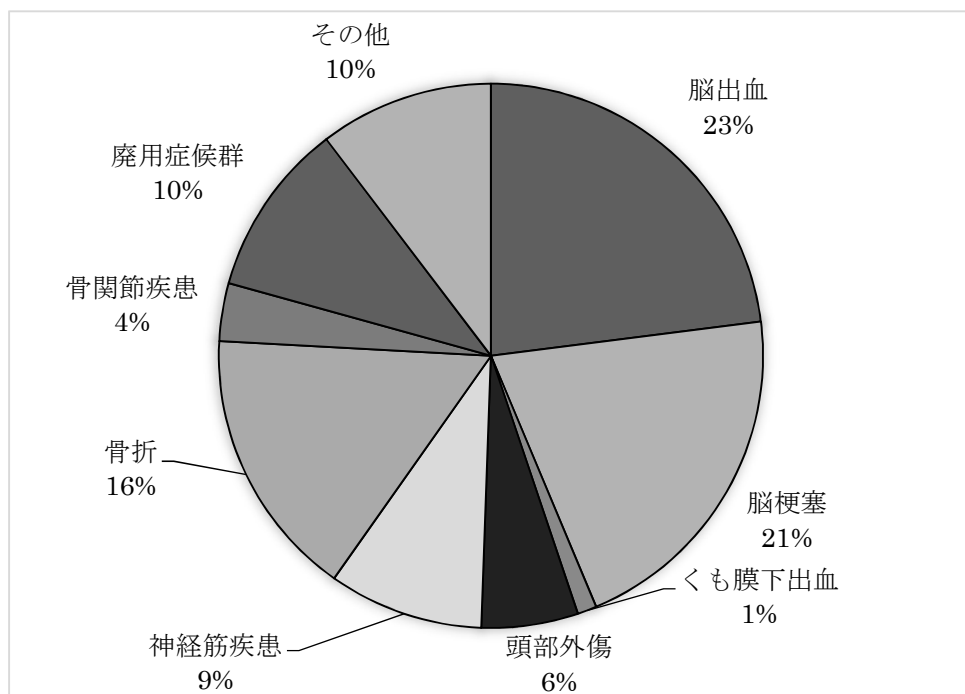
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.00%
20～29才	0	0	0	0.00%
30～39才	3	1	4	4.60%
40～49才	7	2	9	10.34%
50～59才	11	11	22	25.29%
60～69才	11	7	18	20.69%
70～79才	8	16	24	27.59%
80～89才	3	7	10	11.49%
90才以上	0	0	0	0.00%
合計	43	44	87	100%
平均年齢	59.3	67.9	63.7	



(4) 外来リハビリテーション疾患別外来患者内訳

疾患名	患者数	構成割合%
脳出血	20	23.0%
脳梗塞	18	20.7%
くも膜下出血	1	1.1%
頭部外傷	5	5.7%
神経筋疾患	8	9.2%
骨折	14	16.1%
骨関節疾患	3	3.4%
廃用症候群	9	10.3%
その他	9	10.3%
合計	87	100.0%



(5) 外来リハビリテーション地域別外来患者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市飯山満町	13	14.94%
船橋市習志野台	9	10.34%
船橋市前原東	6	6.90%
船橋市前原西	5	5.75%
船橋市田喜野井	5	5.75%
船橋市芝山	4	4.60%
船橋市三山	3	3.45%
船橋市西習志野	3	3.45%
船橋市中野木	3	3.45%
船橋市二宮	3	3.45%
習志野市東習志野	2	2.30%
千葉市花見川区幕張本郷	2	2.30%
船橋市金杉	2	2.30%
船橋市新高根	2	2.30%
船橋市旭町	1	1.15%
船橋市栄町	1	1.15%
船橋市夏見台	1	1.15%
船橋市高根台	1	1.15%
船橋市高野台	1	1.15%
船橋市咲が丘	1	1.15%
船橋市七林町	1	1.15%
船橋市習志野	1	1.15%
船橋市大穴南	1	1.15%
船橋市大穴北	1	1.15%
船橋市滝台町	1	1.15%
船橋市坪井町	1	1.15%
船橋市東町	1	1.15%
船橋市二和西	1	1.15%
船橋市北本町	1	1.15%
船橋市本町	1	1.15%
船橋市薬円台	1	1.15%
習志野市藤崎	1	1.15%
習志野市本大久保	1	1.15%
その他県内	6	6.90%
合計	87	100.0%

2 通所リハビリテーション利用者数

(1) 通所リハビリテーション利用者数

(単位：人)

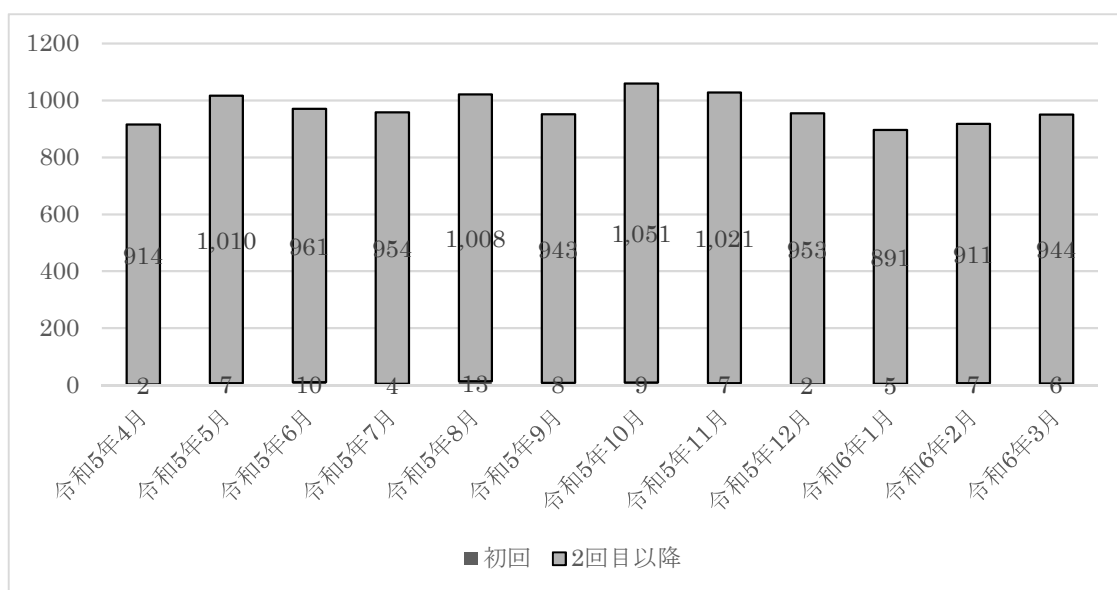
	実利用者数	延べ利用者数
計	280	11,641

(2) 月別通所リハビリテーション実績（延べ人数）内訳

診療日数	257
------	-----

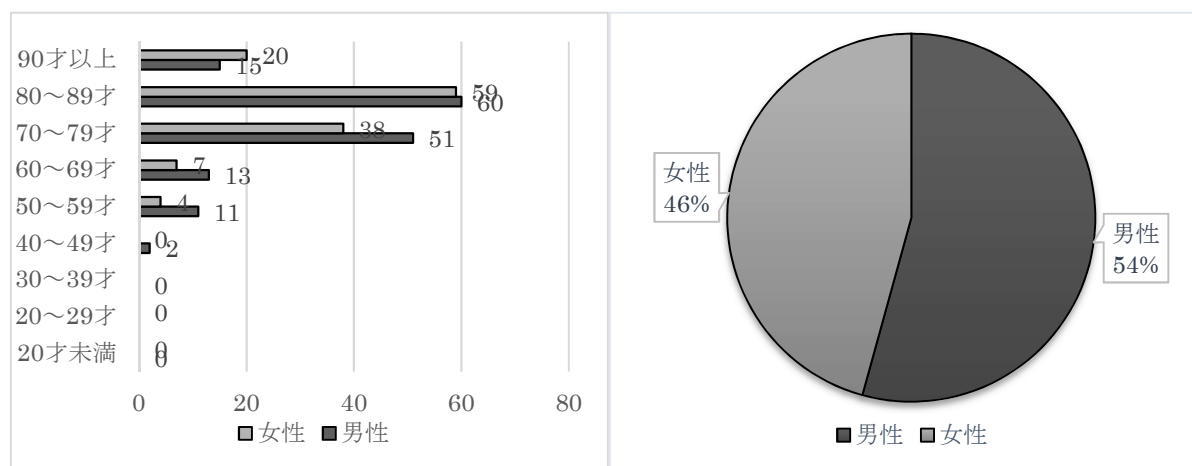
(単位：人)

区分	初回	2回目以降	計
令和5年4月	2	914	916
令和5年5月	7	1,010	1,017
令和5年6月	10	961	971
令和5年7月	4	954	958
令和5年8月	13	1,008	1,021
令和5年9月	8	943	951
令和5年10月	9	1,051	1,060
令和5年11月	7	1,021	1,028
令和5年12月	2	953	955
令和6年1月	5	891	896
令和6年2月	7	911	918
令和6年3月	6	944	950
合計	80	11,561	11,641
1日平均患者	0.3	45.0	45.3



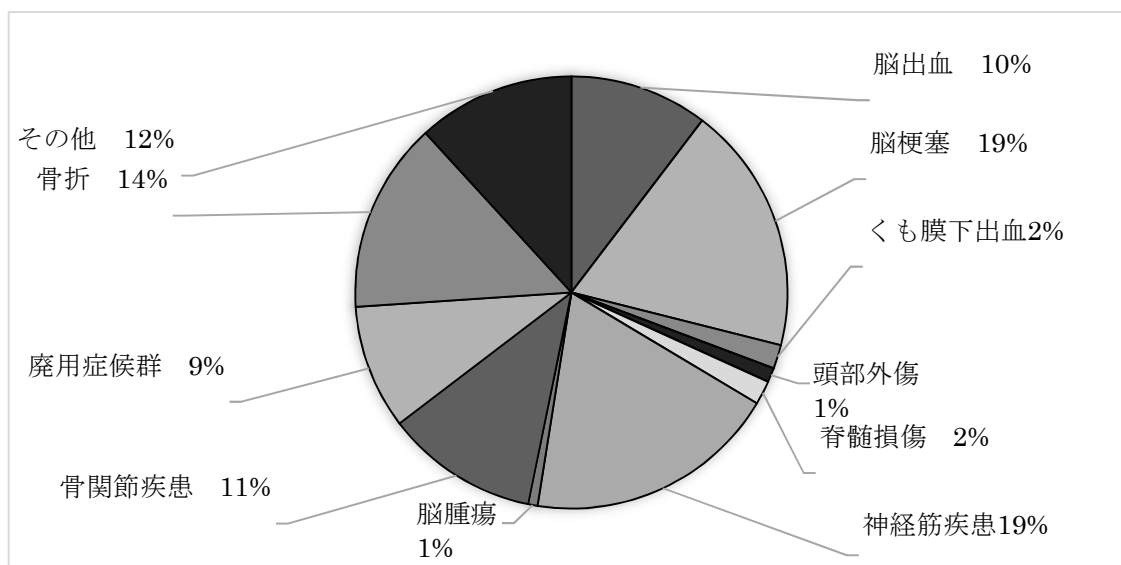
(3) 年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳 (単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	0	0	0.0%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	2	0	2	0.7%
50～59才	11	4	15	5.4%
60～69才	13	7	20	7.1%
70～79才	51	38	89	31.8%
80～89才	60	59	119	42.5%
90才以上	15	20	35	12.5%
合計	152	128	280	100.0%
平均年齢	77.6	80.8	79.7	



(4) 疾患別通所リハビリテーション利用者内訳

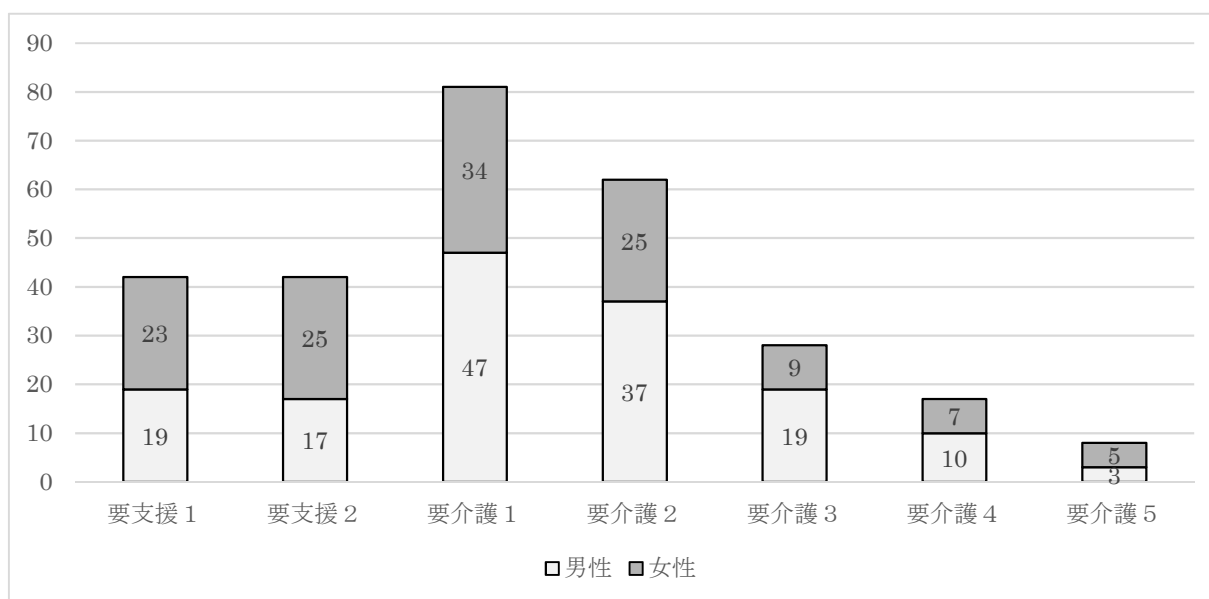
疾患名	患者数	構成割合
脳出血	29	10.4%
脳梗塞	52	18.6%
くも膜下出血	5	1.8%
頭部外傷	3	1.1%
脊髄損傷	5	1.8%
神経筋疾患	53	18.9%
脳腫瘍	2	0.7%
骨関節疾患	32	11.4%
廃用症候群	26	9.3%
骨折	40	14.3%
その他	33	11.8%
合計	280	100.0%



(5) 介護度別分類

(単位：人)

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	19	23	42	15.0%
要支援 2	17	25	42	15.0%
要介護 1	47	34	81	28.9%
要介護 2	37	25	62	22.1%
要介護 3	19	9	28	10.0%
要介護 4	10	7	17	6.1%
要介護 5	3	5	8	2.9%
合計	152	128	280	100.0%



(6) 地域別通所リハビリテーション利用者内訳

地域	患者数	構成割合
船橋市飯山満町	62	22.14%
船橋市前原西	53	18.93%
船橋市前原東	41	14.64%
船橋市芝山	23	8.21%
船橋市二宮	22	7.86%
船橋市薬円台	11	3.93%
船橋市駿河台	9	3.21%
船橋市習志野台	8	2.86%
船橋市田喜野井	7	2.50%
船橋市三山	6	2.14%
船橋市中野木	6	2.14%
船橋市七林町	4	1.43%
船橋市高根台	3	1.07%
船橋市滝台	3	1.07%
船橋市金杉	2	0.71%
船橋市習志野	2	0.71%
船橋市坪井東	2	0.71%
船橋市夏見	1	0.36%
船橋市海神	1	0.36%
船橋市丸山	1	0.36%
船橋市宮本	1	0.36%
船橋市松が丘	1	0.36%
船橋市新高根	1	0.36%
船橋市西習志野	1	0.36%
船橋市滝台町	1	0.36%
船橋市坪井町	1	0.36%
船橋市二和西	1	0.36%
船橋市二和東	1	0.36%
船橋市浜町	1	0.36%
その他県内	4	1.43%
合計	280	100.0%

3 訪問リハビリテーション利用者

(1) 訪問リハビリテーション利用者数

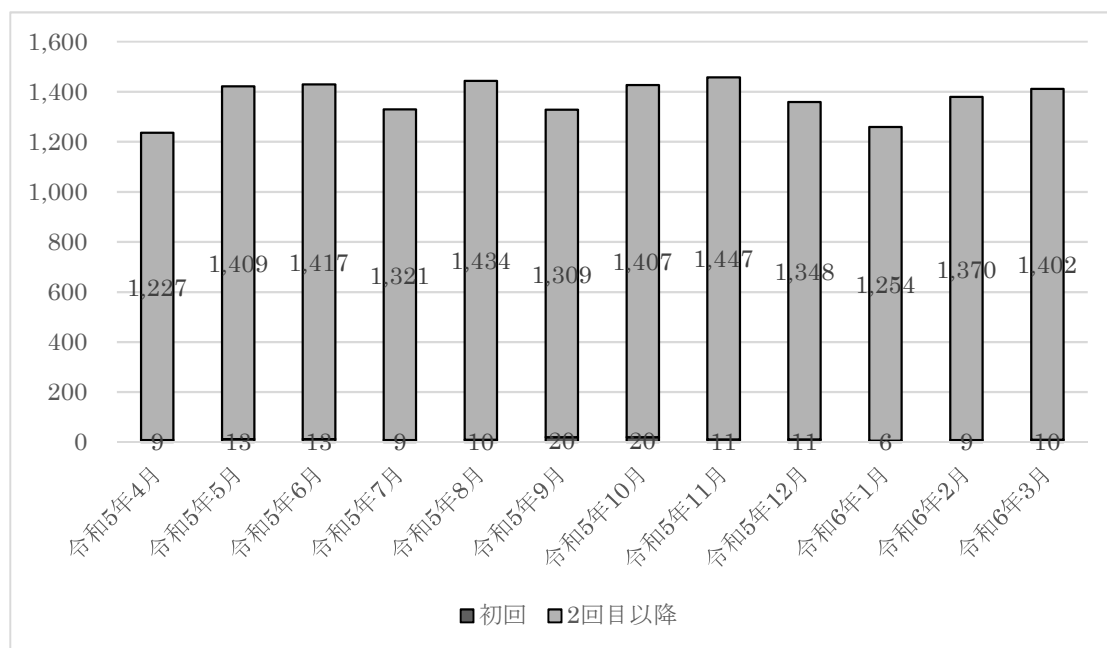
(単位：人)

	実利用者数	延べ利用者数
計	360	16,486

(2) 月別訪問リハビリテーション実績（延べ人数）内訳

診療日数	257
------	-----

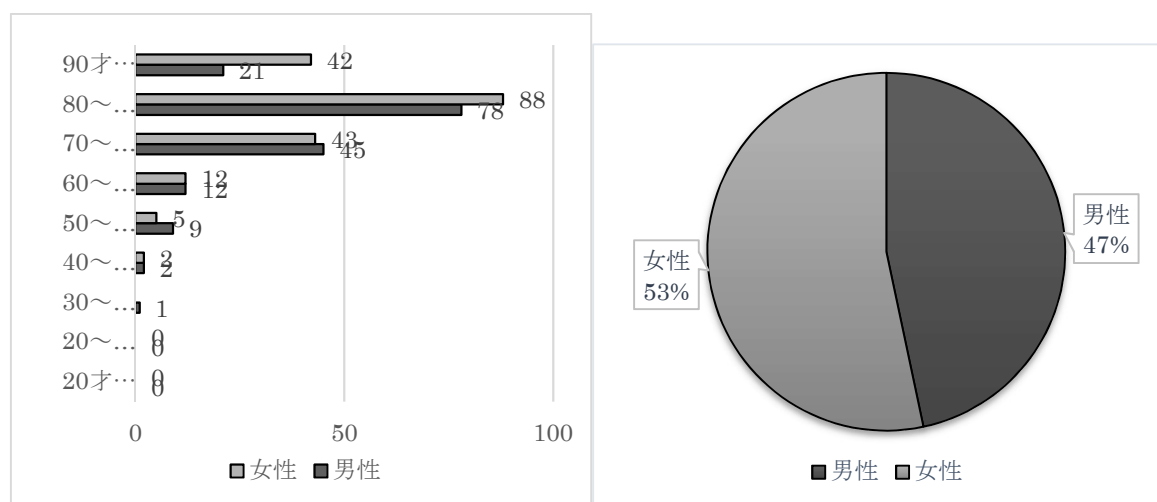
区分	初回	2回目以降	計
令和5年4月	9	1,227	1,236
令和5年5月	13	1,409	1,422
令和5年6月	13	1,417	1,430
令和5年7月	9	1,321	1,330
令和5年8月	10	1,434	1,444
令和5年9月	20	1,309	1,329
令和5年10月	20	1,407	1,427
令和5年11月	11	1,447	1,458
令和5年12月	11	1,348	1,359
令和6年1月	6	1,254	1,260
令和6年2月	9	1,370	1,379
令和6年3月	10	1,402	1,412
合計	141	16,345	16,486
1日平均患者	0.5	63.6	64.1



(3) 年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳

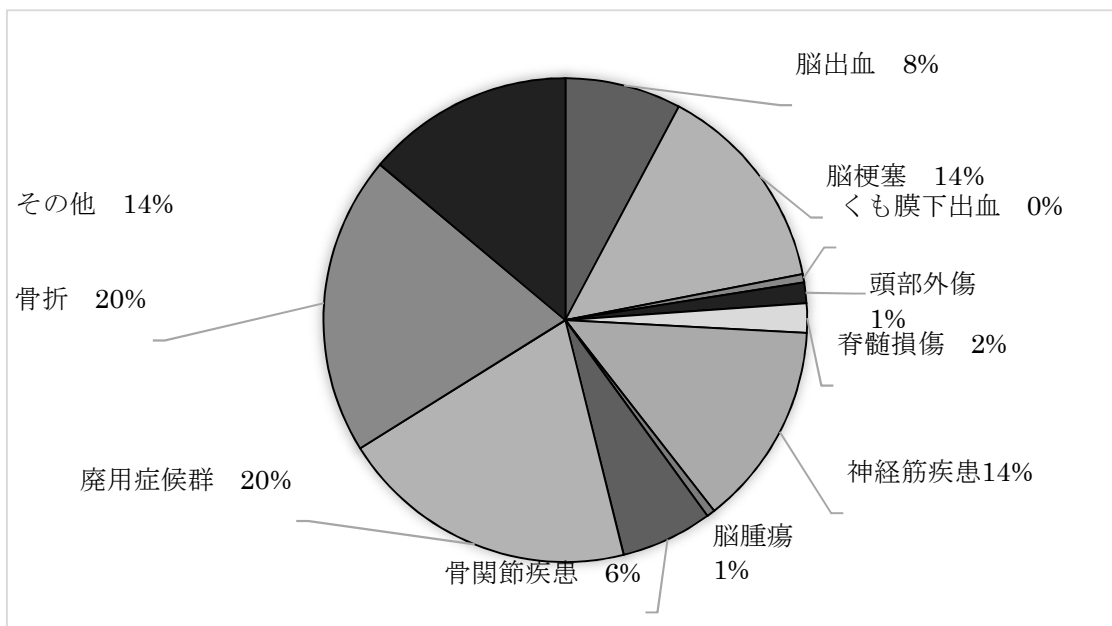
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	0	0	0.0%
30～39才	1	0	1	0.3%
40～49才	2	2	4	1.1%
50～59才	9	5	14	3.9%
60～69才	12	12	24	6.7%
70～79才	45	43	88	24.4%
80～89才	78	88	166	46.1%
90才以上	21	42	63	17.5%
合計	168	192	360	100.0%
平均年齢	79.9	82.7	81.3	



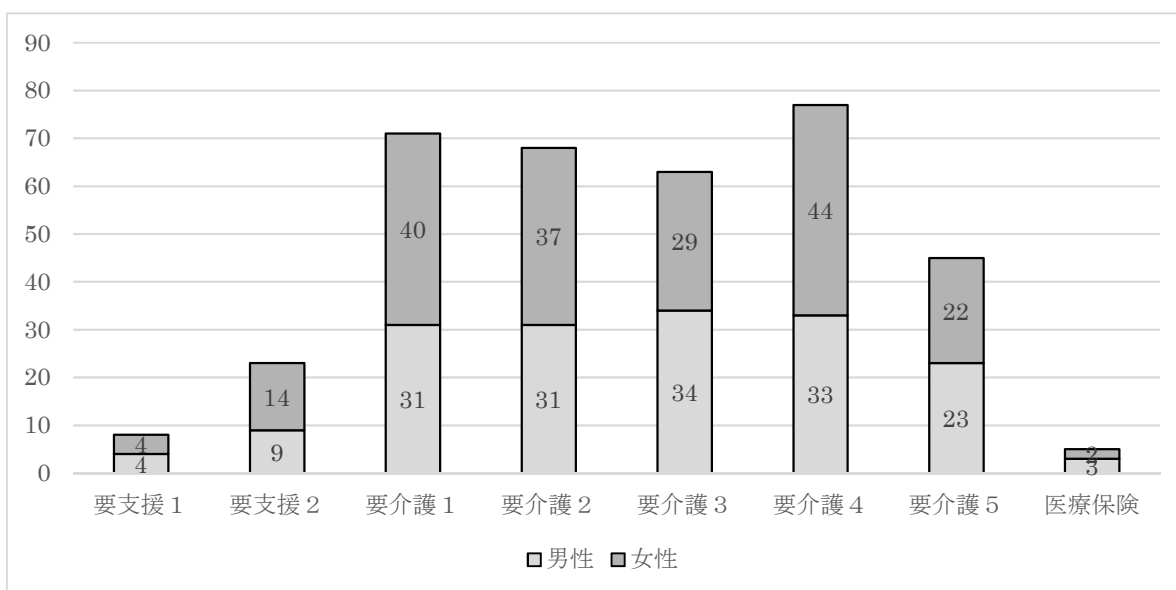
(4) 疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳

疾患名	患者数	構成割合
脳出血	28	7.8%
脳梗塞	51	14.2%
くも膜下出血	2	0.6%
頭部外傷	5	1.4%
脊髄損傷	7	1.9%
神経筋疾患	49	13.6%
脳腫瘍	2	0.6%
骨関節疾患	22	6.1%
廃用症候群	72	20.0%
骨折	72	20.0%
その他	50	13.9%
合計	360	100.0%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	4	4	8	2.2%
要支援 2	9	14	23	6.4%
要介護 1	31	40	71	19.7%
要介護 2	31	37	68	18.9%
要介護 3	34	29	63	17.5%
要介護 4	33	44	77	21.4%
要介護 5	23	22	45	12.5%
医療保険	3	2	5	1.4%
合計	168	192	360	100.0%



(6) 地域別訪問リハビリテーション利用者内訳

地域	患者数	構成割合
船橋市飯山満町	48	13.33%
船橋市前原西	42	11.67%
船橋市習志野台	37	10.28%
船橋市芝山	34	9.44%
船橋市三山	28	7.78%
船橋市前原東	24	6.67%
船橋市高根台	20	5.56%
船橋市田喜野井	19	5.28%
船橋市西習志野	17	4.72%
船橋市二宮	15	4.17%
船橋市薬円台	12	3.33%
船橋市松が丘	9	2.50%
船橋市新高根	9	2.50%
船橋市習志野	7	1.94%
船橋市緑台	6	1.67%
船橋市中野木	5	1.39%
習志野市谷津	3	0.83%
船橋市坪井西	3	0.83%
習志野市藤崎	2	0.56%
船橋市七林町	2	0.56%
船橋市若松	2	0.56%
船橋市駿河台	2	0.56%
船橋市滝台	2	0.56%
船橋市坪井東	2	0.56%
船橋市夏見	1	0.28%
船橋市宮本	1	0.28%
船橋市滝台町	1	0.28%
船橋市東船橋	1	0.28%
その他県内	6	1.67%
合計	360	100.0%

4 訪問看護利用者

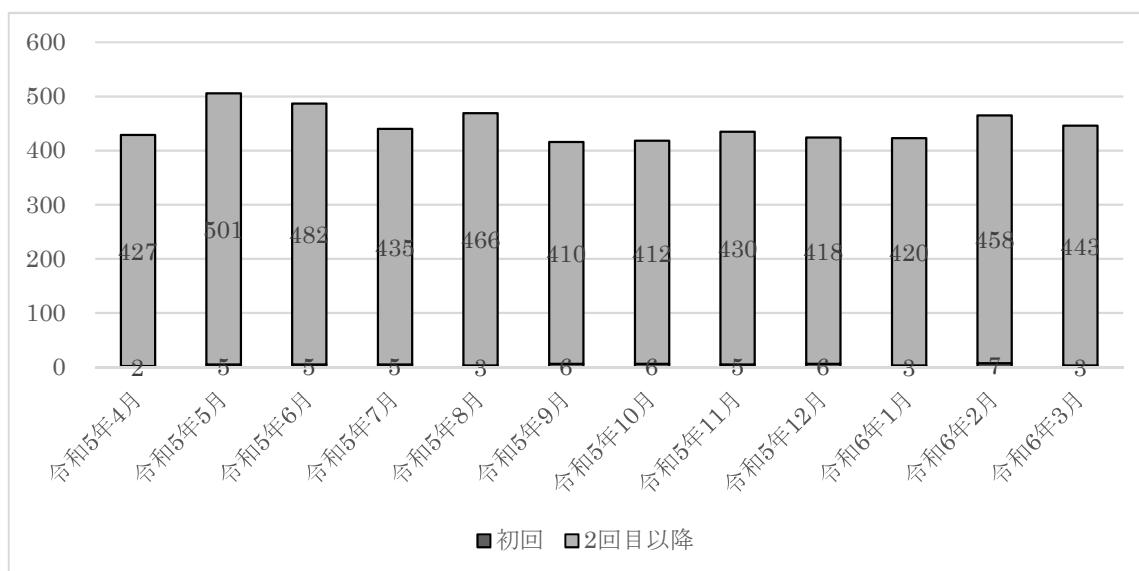
(1) 訪問看護利用者数

	実利用者数	延べ利用者数
計	144	5,358

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳

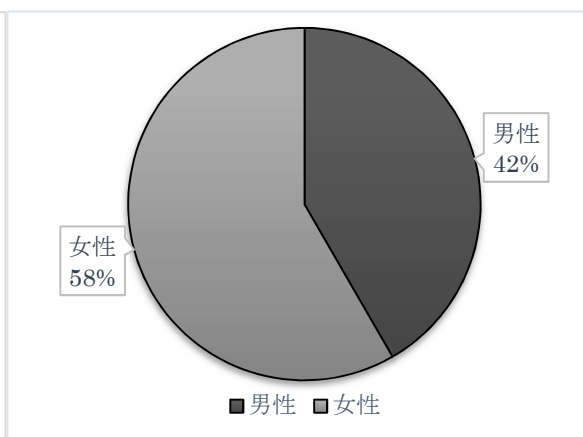
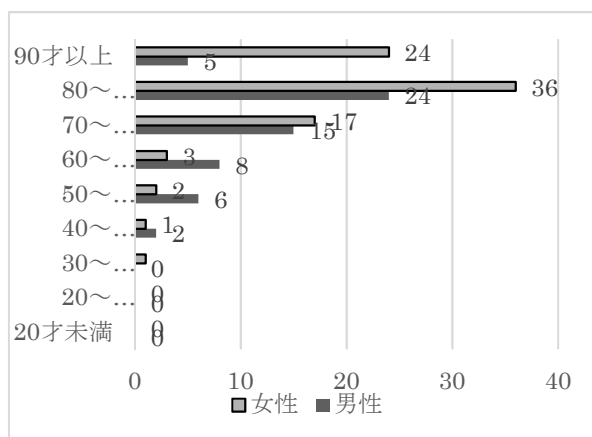
診療日数	257
------	-----

区分	初回	2回目以降	計
令和5年4月	2	427	429
令和5年5月	5	501	506
令和5年6月	5	482	487
令和5年7月	5	435	440
令和5年8月	3	466	469
令和5年9月	6	410	416
令和5年10月	6	412	418
令和5年11月	5	430	435
令和5年12月	6	418	424
令和6年1月	3	420	423
令和6年2月	7	458	465
令和6年3月	3	443	446
合計	56	5,302	5,358
1日平均患者	0.2	20.6	20.8



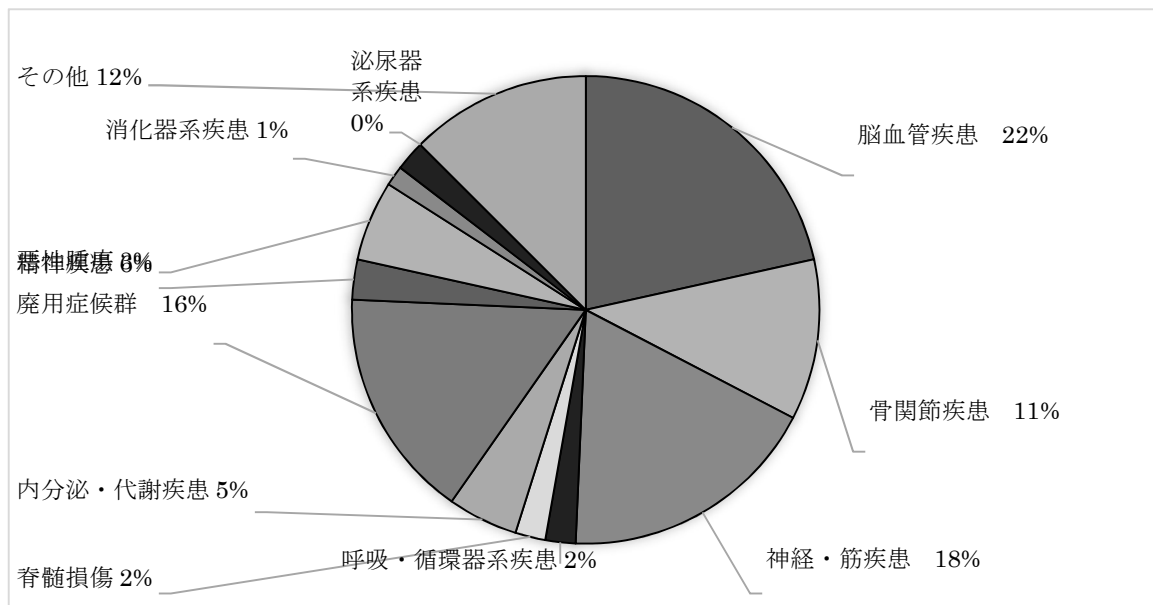
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	0	0	0.0%
30～39才	0	1	1	0.7%
40～49才	2	1	3	2.1%
50～59才	6	2	8	5.6%
60～69才	8	3	11	7.6%
70～79才	15	17	32	22.2%
80～89才	24	36	60	41.7%
90才以上	5	24	29	20.1%
合計	60	84	144	100.0%
平均年齢	75.6	83.3	80.1	



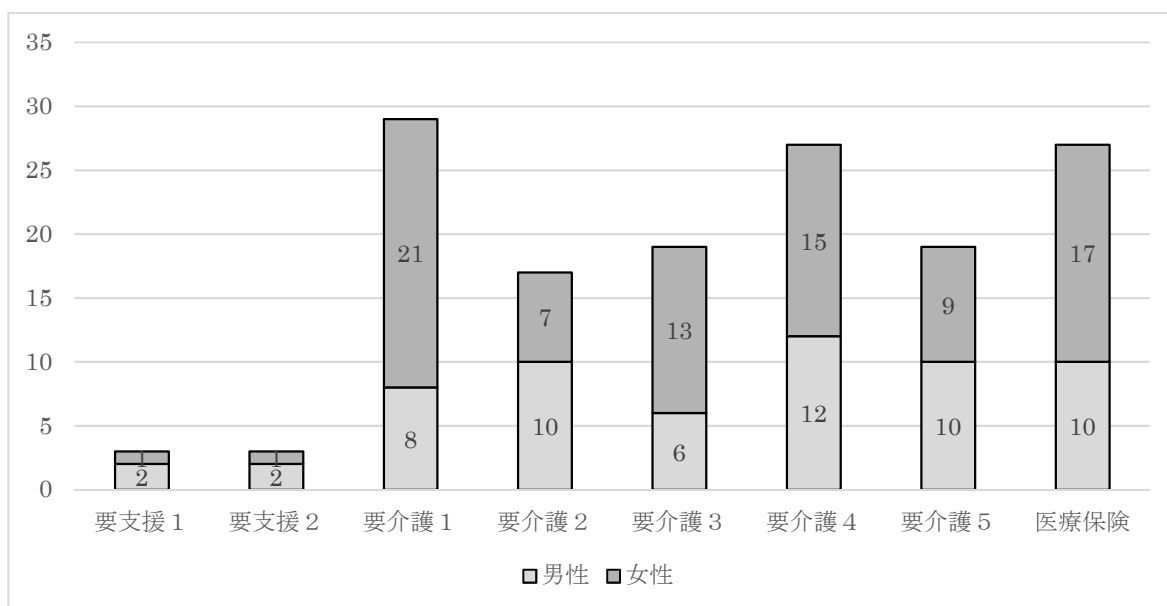
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳

疾患名	患者数	構成割合 %
脳血管疾患	31	21.5%
骨関節疾患	16	11.1%
神経・筋疾患	26	18.1%
呼吸・循環器系疾患	3	2.1%
脊髄損傷	3	2.1%
内分泌・代謝疾患	7	4.9%
廃用症候群	23	16.0%
悪性腫瘍	4	2.8%
精神疾患	8	5.6%
消化器系疾患	2	1.4%
内科系疾患	3	2.1%
泌尿器系疾患	0	0.0%
その他	18	12.5%
合計	144	100.0%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	2	1	3	2.1%
要支援 2	2	1	3	2.1%
要介護 1	8	21	29	20.1%
要介護 2	10	7	17	11.8%
要介護 3	6	13	19	13.2%
要介護 4	12	15	27	18.8%
要介護 5	10	9	19	13.2%
医療保険	10	17	27	18.8%
合計	60	84	144	100.0%



(6) 地域別訪問看護利用者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市飯山満町	27	18.75%
船橋市前原西	22	15.28%
船橋市芝山	13	9.03%
船橋市二宮	11	7.64%
船橋市前原東	10	6.94%
船橋市薬円台	8	5.56%
船橋市高根台	5	3.47%
船橋市田喜野井	5	3.47%
船橋市三山	4	2.78%
船橋市金杉	3	2.08%
船橋市七林町	3	2.08%
船橋市習志野台	3	2.08%
船橋市緑台	3	2.08%
船橋市夏見台	2	1.39%
船橋市金杉台	2	1.39%
船橋市市場	2	1.39%
船橋市習志野	2	1.39%
船橋市新高根	2	1.39%
船橋市西習志野	2	1.39%
船橋市東船橋	2	1.39%
船橋市本町	2	1.39%
船橋市咲が丘	1	0.69%
船橋市三咲	1	0.69%
船橋市若松	1	0.69%
船橋市松が丘	1	0.69%
船橋市大穴南	1	0.69%
船橋市滝台	1	0.69%
船橋市滝台町	1	0.69%
船橋市中野木	1	0.69%
船橋市坪井西	1	0.69%
船橋市浜町	1	0.69%
習志野市藤崎	1	0.69%
合計	144	100.0%

5 地域リハビリテーション拠点事業

項目	回数
リハビリ関係者向け講演会	2回
リハビリ関係者向け研修会	7回
市民向け講演会	2回
市民向け研修会	7回

参加者総数	1,006	(単位：人)
-------	-------	--------

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業活動実績)

6 リハビリ事業

(1) パワーリハビリ教室

① パワーリハビリ教室 利用者数

	延べ利用者数
計	1,266

③ 月別パワーリハビリ教室（延べ人数）内訳

実日数	88
-----	----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
令和4年4月	134	18
令和4年5月	120	18
令和4年6月	90	17
令和4年7月	130	17
令和4年8月	128	17
令和4年9月	76	17
令和4年10月	101	13
令和4年11月	101	13
令和4年12月	66	13
令和5年1月	110	17
令和5年2月	125	17
令和5年3月	85	14
合計	1,266	—
1日平均患者	14.4	—

(2) パワーリハビリフォローアップ

①パワーリハビリフォローアップ 利用者数

	延べ利用者数
計	12,922

②月別パワーリハビリフォロー（延べ人数）内訳

実日数	244
-----	-----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
令和5年4月	1,092	304
令和5年5月	1,074	275
令和5年6月	1,143	274
令和5年7月	1,111	289
令和5年8月	1,092	288
令和5年9月	1,024	288
令和5年10月	1,145	294
令和5年11月	1,085	293
令和5年12月	1,104	292
令和6年1月	999	302
令和6年2月	977	301
令和6年3月	1,076	289
合計	12,922	—
1日平均患者	52.9	—

(3) プールリハビリ

①プールリハビリ 利用者数

	延べ利用者数
計	4,633

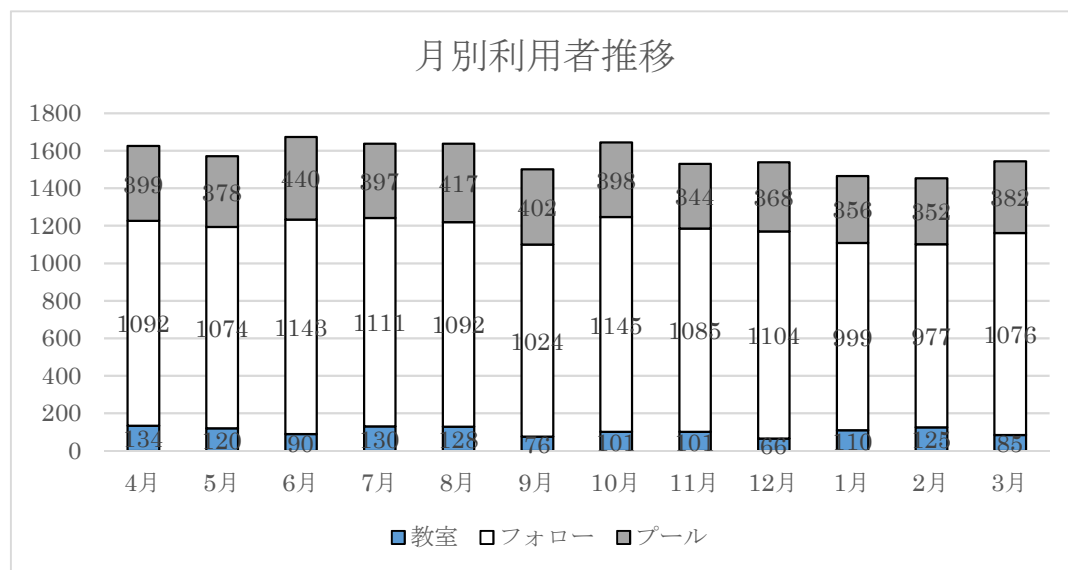
②月別プールリハビリ（延べ人数）内訳

実日数	244
-----	-----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
令和5年4月	399	160
令和5年5月	378	142
令和5年6月	440	146
令和5年7月	397	147
令和5年8月	417	152
令和5年9月	402	153

令和5年10月	398	148
令和5年11月	344	149
令和5年12月	368	149
令和6年1月	356	149
令和6年2月	352	153
令和6年3月	382	143
合計	4,633	—
1日平均患者	18.9	—



Ⅲ 収支状況

令和5年度における船橋市リハビリセンターの収支は以下の通りである。

なお、表示単位未満を端数処理しているため、合計と一致しない場合がある。

単位：千円

		診療所	訪問看護	リハビリ事業	地域リハ拠点事業	施設管理	合計
医業収益	利用料	0	0	6,587	0	0	6,587
	指定管理委託料	0	0	18,788	0	0	18,788
	医療・外来収益	27,468	0	0	0	0	27,468
	介護・外来収益	188,603	0	0	0	0	188,603
	受託検査・施設利用収益	34	0	0	0	0	34
	訪問看護収益	0	45,279	0	0	0	45,279
	その他医業収益	1,160	408	0	25,646	24,683	51,897
計		217,264	45,688	25,375	25,646	24,683	338,656
保険等査定減		-9	0	0	0	0	-9
計		217,255	45,688	25,375	25,646	24,683	338,647
医業費用		231,037	39,465	21,903	10,726	17,312	320,444
医業利益		-13,783	6,222	3,472	14,920	7,371	18,203
本部配賦額		0	0	0	0	0	0
事業利益		-13,783	6,222	3,472	14,920	7,371	18,203
医業外収益	受取利息配当金	0	0	0	0	0	0
	有価証券売却益	0	0	0	0	0	0
	患者外給食収益	0	0	0	0	0	0
	補助金・負担金	0	0	0	0	0	0
	その他の医業外収益	697	654	0	0	0	1,351
計		697	654	0	0	0	1,351
医業外費用	支払利息	0	0	0	0	0	0
	有価証券売却損	0	0	0	0	0	0
	患者外給食材料費	0	0	0	0	0	0
	診療費減免	0	0	0	0	0	0
	貸倒損失	0	0	0	0	0	0
	貸倒引当金繰入額	0	0	0	0	0	0
	資産に係る控除対象外消費税等	0	0	0	0	0	0
	繰延消費税等償却	24	0	0	0	0	24
	その他の医業外費用	12	0	0	0	0	12
計		36	0	0	0	0	36
経常利益		-13,121	6,876	3,472	14,920	7,371	19,518
特別利益	固定資産売却益	0	0	0	0	0	0
	施設設備補助金等収入	0	0	0	0	0	0
	その他の特別利益	0	0	0	0	0	0
特別利益		0	0	0	0	0	0
特別損失	固定資産廃棄売却損	0	690	0	0	0	690
	施設設備補助金等積立金繰入額	0	0	0	0	0	0
	有価証券評価損	0	0	0	0	0	0
	その他の特別損失	0	0	0	0	0	0
特別損失		0	690	0	0	0	690
税引前当期純利益		-13,121	6,186	3,472	14,920	7,371	18,828
法人税・住民税及び事業税負担額		0	0	0	0	0	0
税金等調整額		0	0	0	0	0	0
当期純利益		-13,121	6,186	3,472	14,920	7,371	18,828

医業費用内訳

			診療所	訪問看護	リハビリ事業	地域リハ拠点事業	施設管理	合計
	給与費	給料	158,950	27,732	12,906	5,262	0	204,850
		賞与	16,627	2,804	1,820	690	0	21,941
		賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	0
		退職給付費用	2,079	288	200	199	0	2,766
		法定福利費	23,897	4,751	2,148	914	0	31,711
	計		201,553	35,576	17,074	7,066	0	261,268
	材料費	医薬品費	121	0	3	0	0	124
		診療材料費	612	14	231	0	0	858
		医療消耗器具備品費	343	0	35	0	0	379
		給食用材料費	0	0	0	0	0	0
		計	1,077	14	269	0	0	1,360
	委託費	検査委託費	0	0	0	0	0	0
		給食委託費	0	0	0	0	0	0
		寝具委託費	0	0	0	0	0	0
		医事委託費	0	0	0	0	0	0
		清掃委託費	0	0	0	0	6,600	6,600
		保守委託費	0	0	0	0	103	103
		その他委託費	1,388	154	232	264	7,392	9,431
	計		1,388	154	232	264	14,095	16,133
	設備関係費	減価償却費	1,948	403	232	0	40	2,623
		機器賃借料	0	0	0	0	0	0
		土地代家賃	6,172	335	0	0	0	6,507
		修繕費	394	47	61	0	0	502
		固定資産税等	20	0	4	0	0	24
		機器保守費	2,617	240	363	0	0	3,220
		機器設備保険料	0	0	0	0	0	0
		車両関係費	5,325	986	275	3	861	7,450
	計		16,476	2,011	935	3	901	20,325
		研究費	0	0	0	0	0	0
		研修費	472	15	19	225	0	731
		計	472	15	19	225	0	731
	経費	福利厚生費	201	12	71	2	0	286
		募集採用費	8	0	0	0	0	8
		旅費交通費	12	2	0	0	0	14
		職員被服費	2,058	295	107	46	0	2,506
		通信費	1,971	844	278	218	0	3,309
		広告宣伝費	134	17	17	355	0	522
		消耗品費	1,796	204	326	184	208	2,719
		消耗器具備品費	507	18	63	0	0	588
		図書費	222	24	0	0	0	246
		会議費	29	14	0	45	0	88
		水道光熱費	1,366	154	0	0	0	1,520
		賃借料	133	0	20	0	0	152
		保険料	268	31	84	0	0	383
		交際費	11	0	0	0	0	11
		諸会費	384	37	0	0	0	421
		租税公課	-8	44	2,341	2,319	2,102	6,798
		貸倒損失	1	0	-1	0	0	0
		貸倒引当金繰入	0	0	0	0	0	0
		支払手数料	511	0	69	0	0	580
		寄付金	0	0	0	0	0	0
		雑費	468	0	0	0	6	474
	計		10,073	1,695	3,373	3,169	2,316	20,626
			0	0	0	0	0	0
	合 計		231,037	39,465	21,903	10,726	17,312	320,444

IV 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告

1. 利用者及びその家族に対して提供するサービスに関する事項

I 外来患者について

目標1 利用者アンケートによる患者満足度

令和5年度目標：

1. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③待ち時間についてご満足いただけましたか。
2. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

令和5年度実績：各項目で目標を達成した

1. 外来患者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 100.0%
「満足」のみの割合 : 73.7%
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 94.7%
「満足」のみの割合 : 78.9%
 - ③待ち時間について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 94.7%
「満足」のみの割合 : 73.7%
2. 外来患者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 100.0%
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 95.0%

目標達成に対する活動状況について

- ① 職員の対応に関する事項の満足度の向上
サービス向上委員会を設置し、センター内ラウンドを月一回実施した。
委員会では令和5年度の接遇目標を作成し、職員に周知した他、接遇の達成度を振り返った。
また、接遇に優れるスタッフを職員の投票により選出し、選ばれたスタッフを表彰した。

② 待合室に関するサービスの向上

外来の待合室については、受付のレイアウトを来院する患者・利用者の様子を確認し易いよう工夫をし、患者、利用者の待ち時間に対する負担軽減に取り組んだ。

③ 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づき、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

④ リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

⑤ 御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

⑥ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスク着用を必須としたが、体調や表情が読み取りにくくなることに留意して対応するよう職員に周知した。

令和5年度の実績に基づく今後の改善点について

外来患者へのアンケート①から③の満足度においては、各項目で目標を達成した。

引き続き個別リハビリの内容について十分な説明と同意のもと取り組み、目標を達成するよう努める。待ち時間については「満足」と「やや満足」を足した割合（昨年度87.9%→今年度94.7%）が前年度より向上した。改めて、診療からスムーズにリハビリが開始できるよう体制を見直し改善に努める。

外来患者へのアンケート④の満足度は100%と目標達成できた。⑤の満足度は95.0%と目標達成できた。引き続き、日常生活で効果が実感できる質の高いリハビリテーションを実施できるように努める。

令和6年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

II 通所リハビリ利用者について

目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

令和5年度目標：

令和5年4月から令和6年3月において指定通所リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の10以上とする。

令和5年度実績： 12.9%であり、目標を達成できた

① 令和5年4月から令和6年3月の評価対象期間における通所リハビリテーション終了者数：70名

② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：9名

※通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業等へのサービス移行、または、居宅における家庭での役割を担うことができ通所リハビリテーションを終了した数。

③ ①に占める②の割合： 12.9%

(内訳) 目標達成 9名 (内デイサービスへの移行8名)

リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
・娘さんの付き添い無しで電車に乗り外出することができる。	・駅までの歩行、電車に乗り近隣駅まで行けるようになった。本人は、もっと視野を広げ新しいことを始めたいと自信がついて終了となった。

目標達成に対する活動状況について

①介護保険制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき、通所リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。

②リハビリを担当する職員が、終了した利用者または、担当の介護支援専門員から、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。

③終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。

令和5年度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は12.9%であった。利用者個々に目標を設定し、リハビリテーションプランを実行してきたことで、設定目標の10%を達成できた。令和6年度も、個々に合った目標を設定し、達成に向け、リハビリテーションプランを実行するとともに、通所系サービス事業所等関係機関と連携を図り、利用者の生活の質向上に寄与するよう、働きかけていく。

目標3 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数7年以上の者の占める割合100分の30以上

令和5年度目標：

利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数7年以上のスタッフが占める割合を100分の30以上とする。

令和5年度実績： 40.0%であり、目標を達成した

勤続年数7年以上の者の占める割合：40.0%

(全体の職員数25人　うち勤続年数7年以上の職員数10人)

経験年数	人数
3年未満	3人
3～6年	12人
7～10年	3人
10年以上	7人

目標達成に対する活動状況について

①法人本部に設置する人財育成局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。

令和5年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。その結果、直接従事する職員のうち勤続年数7年以上の占める割合は40.0%と目標を達成し、一定以上の質が保たれた介護サービスが提供できたと言える。

令和6年度も引き続き、在宅生活を支援するための介護サービスの充実を図る。

目標4 利用者アンケートによる患者満足度

令和5年度目標：

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③通所リハビリの計画についてご満足いただけましたか。
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

令和5年度実績：5項目中、2項目で目標を達成できなかった

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションについて
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 87.3%
「満足」のみの割合 : 49.0%
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 94.1%
「満足」のみの割合 : 66.7%
 - ③通所リハビリの計画について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 79.4%
「満足」のみの割合 : 43.1%
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 88.2%
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 86.3%

目標達成に対する活動状況について

- ① 職員の対応に関する事項の満足度の向上
サービス向上委員会を設置し、センター内ラウンドを月一回実施した。
委員会では令和5年度の接遇目標を作成し、全体会議にて周知した他、接遇の達成度を振り返った。
また、接遇に優れるスタッフを職員の投票により選出し、選ばれたスタッフを表彰した。
- ② 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上
患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づき、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。ま

た、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

- ③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

令和5年度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリ利用者へのアンケートの満足度は①は「満足」と「やや満足」を足した割合は目標を達成したが、「満足」のみの割合が49.0%と目標を達成できなかった。具体的には、「もう少し長くやりたかった」「もう少し個別リハを行いたい」というコメントがあった。③の通所リハビリの計画については「満足」と「やや満足」を足した割合、「満足」のみの割合ともに目標未達成であった。「もう少し説明を聞きたい」というコメントがある一方、「丁寧な説明でありがたい」というコメントもあるため、具体的でわかりやすいリハビリ計画の立案と利用者の個別性に合わせた丁寧な説明を実施するなど改善に努める。

通所リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度は目標を達成できた。これらのことから、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

令和6年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

Ⅲ 訪問リハビリ利用者について

目標5 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

令和5年度目標：

令和5年4月から令和6年3月において指定訪問リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の20以上とする。

令和5年度実績： 22.9%であり、目標を達成した

- ① 令和5年4月から令和6年3月の評価対象期間における指定訪問リハビリテーション終了者数：140名
- ② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：32名
 ※通所リハビリテーション、通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業へのサービス移行、または、居宅における家庭での役割を担うことができ訪問リハビリテーションを終了した数。
- ③ ①に占める②の割合： 22.9%

内訳)

- ・ 目標達成 32名（内通所リハビリへ移行は21名）

リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
構音障害に対するリハ、自主トレの定着	発話明瞭度も向上し、自主トレも定着したため、リハビリセンター予防事業へ移行。
関節可動域の改善	今後、訪問介護・訪問看護で本人と車いす乗車時間が延長し、新たな目標が出た所で再度介入することに。
退院直後から訪問リハ。高次脳機能障害の影響あるが、自宅で転倒なく過ごし、食事を安全に摂取できるようになること	転倒した際の要因を共有し、対策を図ることができ、食事でも誤嚥なく摂取できるようになり、訪問リハ終了。
最寄り駅まで歩行自立。天気の良い日は自宅外を散歩することができ、自宅内での上肢・下肢の自己ストレッチを継続する事ができることを目的に訪問リハ開始。	全てを達成し、終了。
コンビニまで安全に歩行することができ、庭の草むしりが安全に行える。自主トレーニングが継続して行う事ができる。	全てを達成し、終了。

入浴自立、洗濯物、料理などの家事が制限なく行える。自転車での移動の再開を目的に訪問リハ実施。	全てを達成し、終了。
家事を含めた独居生活の再開、毎日1回ポストまで行く、買い物に歩いて行くことができるようになる。	ポストへは週に4～5回（一部達成）、その他は全て達成し終了。
一人での1km以上の連続歩行。 社会的活動の再開。	一人で1km以上の連続歩行が可能になった。体操教室への参加、庭の手入れや小鳥へのエサやり、読書会への参加もできるようになり訪問リハ終了。
歩行能力の向上。 食事摂取量の増加。 家族と外出できるようになる。 家庭内の役割獲得。	食事も一定量食べることができるようになった。家族と買い物に出掛けられたり、洗濯物畳みなどの活動量も向上し、家族からの心配ごととも聞かれなくなり、訪問リハ終了。
右片麻痺、注意障害あり。 注意力向上。 援助のもと課題の対策を立てる事ができる。 就労のイメージを持つことができる。	注意力が向上し質疑応答課題で正しく答える事ができるようになった。課題の対策立案は援助のもと実施。通所リハに移行し、就労支援施設利用に向けリハを継続していくことになり、訪問リハ終了。
左上下肢の関節可動域の維持。 家族介助で浴槽浴を行うことができる。 支持物を使い起き上がることができる。	左上下肢の関節可動域を維持でき、浴槽内台を最低の高さで家族介助で浴槽浴を行うことができるようになった。床上動作を支持物を使い起き上がることができるようになり、訪問リハ終了。

目標達成に対する活動状況について

- ①介護保険制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様式例の提示について）訪問リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。
- ②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者のADLとIADLが向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。
- ③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問

し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、A D L と I A D L が維持又は改善していることを確認した。

④また、居宅に訪問しA D L と I A D L の状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、A D L と I A D L の情報を確認した。

⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。

令和5年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は22.9%であった。昨年度は達成割合は9.7%であったが、やり方は変更していない。令和6年度も、個々に合った目標を設定し、達成に向け、リハビリテーションプランを実行するとともに、通所系サービス事業所等関係機関と連携を図り、利用者の生活の質向上に寄与するよう、働きかけていく。

目標6 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

令和5年度目標： 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合を100分の30以上とする。
令和5年度実績： 90.9%であり、目標を達成した 勤続年数3年以上の者の占める割合：90.9% 理学療法士 13人 （うち勤続年数3年以上の者） 12人 作業療法士 7人 （うち勤続年数3年以上の者） 6人 言語聴覚士 2人 （うち勤続年数3年以上の者） 2人
目標達成に対する活動状況について ①法人本部に設置する人財育成局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。
令和5年度の実績に基づく今後の改善点について リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。その結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は90.9%の実績であり、昨年度の100%よりは低下したが、継続して一定以上の質が保たれたサービスが提供できたと言える。 令和6年度も引き続き、在宅生活を支援するためのサービスの充実を図る。

目標7 利用者アンケートによる患者満足度

令和5年度目標：

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③訪問リハビリテーションの計画についての説明は分かりやすかったですか。
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

令和5年度実績： 5項目中、1項目で目標を達成できなかった

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について

「満足」と「やや満足」を足した割合	: 94.3%
「満足」のみの割合	: 65.7%
 - ②職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合	: 97.1%
「満足」のみの割合	: 83.8%
 - ③訪問リハビリの計画についての説明

「満足」と「やや満足」を足した割合	: 91.4%
「満足」のみの割合	: 51.4%
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	: 90.5%
-------------------------	---------
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	: 88.6%
-------------------------	---------

目標達成に対する活動状況について

- ① 職員の対応に関する事項の満足度の向上

管理職が基軸となり、訪問リハビリ同行するなどし、従事する職員に対し、訪問療法士としての姿勢・態度、利用者・家族の生活の視点、情報収集・説明責任、訪問リハビリの基本的視点、リスク管理、多職種協同の具現化などについて指導を行った。また、接遇について各職員が日頃気を付けている点をまとめ、共有することで意識付けを行った。
- ② 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示すること

や、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④満足度調査の結果だけでなく、訪問時に利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

令和5年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリ利用者へのアンケート①、②の満足度は、各項目で目標を達成し、「満足」と「やや満足」を足した割合は昨年度よりも評価が上がっていた。リハビリテーションの質や技術、接遇などを意識し、より満足度が向上するよう努めた結果と考える。ただ、③については「満足」のみの割合が51.4%と目標を達成することができなかった。より利用者の立場にたち、分かりやすいリハビリ計画の立案と説明ができるように努める。

また、訪問リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度は目標を達成できた。これらのことから、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

令和6年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

IV 訪問看護利用者について

目標8 利用者アンケートによる患者満足度

令和5年度目標：

訪問看護利用者へのアンケート項目①～③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

- ①当センターのスタッフが提供する訪問看護についてご満足いただけましたか。
- ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
- ③訪問看護の計画についての説明は分かりやすかったですか。

令和5年度実績：各項目で目標を達成した

- ① 訪問看護について
 - 「満足」と「やや満足」を足した割合 : 87.5%
 - 「満足」のみ割合 : 67.5%
- ②職員の対応について
 - 「満足」と「やや満足」を足した割合 : 87.5%
 - 「満足」のみ割合 : 70.0%
- ③訪問看護の計画についての説明
 - 「満足」と「やや満足」を足した割合 : 90.0%
 - 「満足」のみ割合 : 60.0%

目標達成に対する活動状況について

- ① 職員の対応に関する事項の満足度の向上
適宜、訪問看護ステーションの所長が職員の訪問に帯同し、訪問看護の内容や接遇を把握し指導を行った。また、接遇について各職員が日頃気を付けている点をまとめ、共有することで意識付けを行った。
- ② 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上
患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づき、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。
- ③ 訪問看護の提供に当たっては、職員の知識・技術向上研修等で満足度の向上を目指した。また、利用者ごとに毎月発行する訪問看護計画・報告書を訪問看護ステーション所長が全例を確認し、職員の技術向上を図った。

令和6年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問看護利用者へのアンケート①から③の満足度は、各項目で目標を達成したが、各項目「満足のみ」の数字が昨年度よりも低くなっている為、質や技術、接遇などを意識しより満足度が向上するよう努めたい。

令和6年度も引き続き、更なる患者満足度の向上を図る。

V リハビリ事業利用者について

目標9 利用者アンケートによる満足度

令和5年度目標：

リハビリ事業利用者へのアンケート項目①～③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

①職員の対応についてご満足いただけましたか。

②当センターのパワーリハビリについてご満足いただけましたか。

③当センターのプールリハビリについてご満足いただけましたか。

令和5年度実績： 3項目中、1項目で目標を達成できなかった

① 職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 96.7%

「満足」のみの割合 : 81.4%

② パワーリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 94.5%

「満足」のみの割合 : 64.1%

③ プールリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合 : 91.1%

「満足」のみの割合 : 54.4%

目標達成に対する活動状況について

① 職員の対応に関する事項の満足度の向上

② 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

職員の対応については「外来患者・通所リハビリ・訪問リハビリ患者または利用者満足度」の活動状況に記載したとおり接遇研修を実施し、スタッフの接遇レベル向上を図った。

また、患者・利用者のプライバシーへの配慮についても、同様な対応をとり満足度の向上を図った。

③ 御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

令和5年度の実績に基づく今後の改善点について

①と②に関しては目標を達成できた。③の「満足のみ」の割合は54.4%と目標を達成できなかったが、昨年度の47.9%よりは上昇していた。③は予約がいっぱいで希望時間帯に予約の取り難さを上げる声があり、数字に影響していると考えられる。

全体的に「満足」と「やや満足」合わせれば非常に高い満足度であることから、利用率の高い状況下においても利用者の安全性の確保や、利用し易い施設運営は図れていると考えられる。

令和6年度においても引き続き、患者満足度の維持・向上を図る。

2. 財務内容の改善に関する事項

目標10 診療所部門 経常収支比率

令和5年度目標： 診療所経常収支比率 100%以上
令和5年度実績： 診療所経常収支比率 94.0% と目標を達成できなかった ※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出の合計で除して 100を乗じて算出した割合で算出。
目標達成に対する活動状況について ① 増患対策 ・ 外来リハ件数（紹介件数）の増加対策として、船橋市立医療センター等急性期病院へ当クリニックの案内を実施した。 ・ 外来リハビリ患者の増加を目指し、回復期病棟を持つ近隣医療機関へ紹介を行った。また、船橋市立リハビリテーション病院と当クリニックの空き枠情報を共有し、リハ病院退院患者で当クリニックに居住地が近い患者の積極的な受け入れを行った。 ・ 令和5年度も非常勤医師の勤務日数を週3日確保し、外来・通所の新患外来を積極的に実施。またこれにより訪問診療枠を確保し、訪問リハ件数が増加しても3ヶ月に1回の往診が継続できる体制とした。 ・ 通所リハビリ、訪問リハビリ利用者の増加を目指し、サービスエリア内の居宅介護支援事業所との情報交換を実施した。また、船橋市立リハビリテーション病院と当クリニックの空き枠情報を共有し、リハ病院退院患者で当クリニックに居住地が近い患者の積極的な受け入れを行った。 ・ センター機関誌を有効活用し、地域・医師会・居宅介護支援事業所・在宅へセンターの情報発信を実施した。 ② 費用の削減 ・ 患者・利用者の減少時・増加時に無理・無駄の無いスムーズな人員配置が出来るよう、法人本部に設置する人財育成局を通じ、他の拠点との人事異動を可能にし、常に適切な人員配置に努めた。

令和5年度の実績に基づく今後の改善点について

※外来リハ 令和5年度実績 29.2人／日（前年度対比 +0.3人／日）

※通所リハ 令和5年度実績 45.3人／日（前年度対比 +0.1人／日）

※訪問リハ 令和5年度実績 64.1人／日（前年度対比 +5.0人／日）

外来リハ・通所リハ・訪問リハともにそれぞれ増加した。また、訪問リハはR4年度は減少したが、令和5年度は患者数が増加した。

令和5年度の経常利益は-13,121千円で、診療所経常収支比率は94.0%であった。前年度は-11,738千円で経常収支比率は94.6%であったため、前年度に比べて▲0.6%の減少となった。医業収益は前年度に比べ13,969千円増加、給与費など医業費用も14,221千円増加した。医業外収益は前年度に比べ▲1,108千円減少した。新型コロナ関係の補助金の減少による影響が大きい。

令和6年度においても、5類変更にはなったが引き続き新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しながら、患者・利用者が安心して通院できるよう、また、安心して自宅でリハビリを受けることができるよう、クリニック運営を行っていく。

目標11 訪問看護部門 経常収支比率

令和5年度目標： 訪問看護経常収支比率 100%以上
令和5年度実績： 訪問看護経常収支比率 115.8% と目標達成した <u>※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出の合計で除して100を乗じて算出した割合で算出。</u>
目標達成に対する活動状況について ①増患対策 ・サービスエリア内居宅介護支援事業所と情報交換を実施した。 ・訪問看護からの訪問リハ（訪問看護Ⅰ5）を実施し、訪問看護・訪問リハの併用が必要な利用者についてケアマネジャーが依頼しやすい体制を整え、訪問看護件数の増加を図った。 ・同法人が運営する船橋市立リハビリテーション病院の会議に訪問看護スタッフが参加し、訪問看護に繋げられる患者の掘り起こしを実施。また、船橋市立リハビリテーション病院入院患者で当センターの訪問範囲に住む患者の一覧を共有することにより対象患者を絞りこみ、船橋市立リハビリテーション病院へアプローチできる体制を整えた。 ②費用の削減 ・看護師は紹介会社経由で採用すると高額な紹介手数料が発生する。可能な限り紹介会社を使わなくてすむよう、同法人他拠点の退職希望者への声掛けなどを行うことで、費用を抑えた採用につなげた。
令和5年度の実績に基づく今後の改善点について ※訪問看護 令和5年度実績 20.8人／日（前年度対比 +0.3人／日） 船橋市立リハビリテーション病院からの紹介件数が17件（令和3年度4件、令和4年度18件）と昨年度よりは1名減少したものの、取り組みを開始する前の令和3年度よりも13名多く紹介を受けることができた。 令和4年度の経常利益は6,876千円で、訪問看護経常収支比率は115.8%であった。前年度は93千円で経常収支比率は100.2%であり、前年度比で見ると15.6%増加した。要因としては、医業収益が+949千円増加、医業費用は▲6,401千円減少したためである。主な減少要因は看護師1名削減し運営したことによる人件費の減少によるもの。令和6年度においては、人員を令和4年度と同じに戻し1名増員しつつも、引き続き船橋市立リハビリテーション病院との連携は途切れないようにしながら利用者増加を図っていく。

3. その他管理に関する重要事項

目標12 毎年度実施計画を立て地域リハビリテーション拠点事業を行う

令和5年度目標：

地域リハビリテーション拠点事業の実施計画に定めた事業内容を最低限行うこと。

令和5年度実績： 新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に移行したため、集合形式での研修会を再開した。Web形式で行うことが有効なものはWebで実施した。

目標達成に対する活動状況について

- | | |
|---|------|
| ① リハビリセンターパンフレット作成 | 1回/年 |
| ② 地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布 | 2回/年 |
| ③ リハビリセンター刊行物の作成、配布 | 4回/年 |
| ④ ホームページに最新情報を掲載 | 2回/年 |
| ⑤ 市民向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑥ 市民向け研修会開催 | 7回/年 |
| ⑦ リハビリ関係者向け講演会開催 | 2回/年 |
| ⑧ リハビリ関係者向け研修会開催 | 7回/年 |
| ⑨ 維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告 | 2回/年 |
| ⑩ 船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行った。 | |
| ⑪ リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行った。 | |

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

令和5年度の実績に基づく今後の改善点について

令和5年度は、対面式で行う研修と、Web（ZOOM）を活用して行う研修を併用し、参加者からは一定の評価を得られた。連携を深める目的で行う研修は対面で、講演等知識を得ることを目的とする研修会はWebで行うことが参加者の利便性を考えると良さそうであるということが分かった。この特性を生かしつつ、令和6年度も研修会等を企画していく。